

鶏 肉 情 勢

令和7年1月15日 更新

全農チキンフーズ㈱

項 目		内 容
供給	1. 国内	(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和6年11月末実施)によると、11月の推計実績は処理羽数62,343千羽(前年比99.1%)、処理重量189.8千トﾝ(同99.1%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は前月予測から0.5%上方修正、処理重量は1.3%上方修正となった。九州エリアが前年から処理羽数ベースで数値を伸ばしており、順調な生産状況だったようだ。 (2) 12月の計画処理羽数・処理重量ともに前年を下回る予想となっており、前月予想から処理重量ベースで2.1%下方修正となっている。昼夜の温度差による飼育管理が難しいことも影響しているのではないだろうか。土・日・祝日数は前年から1日減り9日間。1月については、土・日・祝日が前年と同じ10日間。処理羽数・処理重量ともに前年を上回る見通しだ。前月予想から処理重量ベースで0.8%上方修正となっている。一部産地で脚弱・大腸菌症が発生しているものの、概ね順調な生産状況のようだ。しかし、高病原性鳥インフルエンザの影響により今後処理羽数は減少することが懸念される。工場の人員不足については外国人技能実習生が都市部への就業に集中していることに加え、来日が遅れている産地が一部あるようだ。また、従業員の高齢化もあり人員確保が難しくなっているとの声も聞かれる。副産品(小肉・剣状軟骨など)や機械で加工することが難しい手羽中半割といった加工品の調整を行っている産地もあるようだ。この傾向は暫く続く見通しだ。
	2. 輸入	(1) 財務省12月26日公表の貿易統計によると、令和6年11月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から▲10.3千トﾝの52.0千トﾝ、国別ではブラジルが前月▲7.7千トﾝの35.7千トﾝ、タイが▲2.5千トﾝの15.4千トﾝとなった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、輸入量は12月が52.0千トﾝ(前年比101.9%)、1月は47.4千トﾝ(同86.7%)となっている。食料品全般の値上がりや消費者の生活防衛意識の高まりなどから、比較的安価な輸入鶏肉の需要が増加することを見越し、積極的に在庫を抱えている業者もあるようだ。また、主要輸出国であるブラジル・タイの国内需要の高まりに加え、中東方面の需要も高まっていることから、輸出国での余剰感はあまり無い。ただし、不透明な為替動向や他国の輸入状況次第では状況が変化する可能性はある。 (2) 鶏肉調整品の輸入量は、前月から▲1.7千トﾝの46.2千トﾝで国別では中国が+1.4千トﾝ、タイが▲2.9千トﾝとなった。前年同月実績46.6千トﾝとの差は▲0.4千トﾝとなり、前年比では下回る結果となった。国内の働き手不足やコロナ禍が明けた影響による外食筋の回復、共働き世帯の増加に伴う中食・総菜向け等の引き合いも継続している。冷食関係でも輸入鶏肉を使用したメニューが増えており、鶏肉調整品自体の需要も高い水準を維持している。今後は価格次第では国内需要も見据え輸入量が拡大する可能性がある。 (3) 財務省12月26日公表の貿易統計によると、11月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より+2.2%となった。解体品の国別価格は、ブラジル産の輸入価格が333.8円/kg(前月比+18円)、タイ産が453円/kg(同+29円)となっている(国別平均価格)。為替が円安に推移していることや、ブラジル・タイの国内需要の高まりから価格上昇したと考える。中国がブラジルからの輸入量を前年から絞っているものの、中東向けが増加傾向にある。
需要	1. 家計消費	(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和6年11月の生鮮肉消費(購入)は数量4,279g(前年比104.6%)、金額6,650円(同99.8%)と、重量は前年を上回り、金額は前年を下回った。鶏肉は数量1,586g(同105.2%)・金額1,629円(同103.8%)・単価102.7円/100g(前年同月▲1.3円)と、数量・金額は前年を上回ったものの、単価は前年を下回った。これは購入単価が高いモモ肉から比較的安価なムネ肉へシフトしたことや、ディスカウントストアなどの価格が低く抑えられた店舗での購入機会が増加したためではないだろうか。調理食品が金額12,853円(同100.1%)、外食が16,205円(同108.3%)となっている。畜産の購入数量は牛肉・豚肉・鶏肉いずれも前年を上回る結果となった。輸入品を含めた牛肉・豚肉の高騰が続いたことから安価な鶏肉へのシフトが進んでいると推察される。調理食品は共働き世帯の増加に伴う需要は底堅いようだ。外食においては、ほぼコロナ禍前の水準程度まで回復したものの、統計外となるインバウンドによる集客もあることからエリア・業態によって濃淡があるようだ。
	2. 量販・卸	(1) 一般社団法人全国スーパーマーケット協会の販売統計調査によると、令和6年11月の食品売上高は全店ベースで前年比106.1%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同106.1%、既存店ベースは同104.4%となった。また、畜産部門の売上高は約1,258億円で全店ベース同104.8%、既存店ベース同103.0%となった。同社が取りまとめたスーパーマーケット景気動向調査によると「牛肉や輸入肉は相場高が継続するなか、豚肉や鶏肉を中心に好調となった。牛肉は切り落としや小間切れなどが販売の中心となっており、不振が続く。中旬以降、気温が低下したことで鍋関連の動きがよく、スライスやしゃぶしゃぶ用の国産豚肉、鶏肉が好調となった。鶏肉には、前年高病原性鳥インフルエンザ発生からの反動増もみられたが、今年も影響を懸念する声が聞かれ始めた。加工肉は高値傾向で不振が続いているとのコメントが多い。」とコメントがあった。鍋物食材などの季節商品の動きが良かったようだ。
在庫	3. 業務・加工筋	(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和6年11月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比101.5%の4.8千トﾝとなった。うち国内品は同109.7%の3.9千トﾝと前年を上回り、輸入品については同76.6%の0.9千トﾝと前年を下回った。
	1. 令和6年11月	(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の11月末時点推定期末在庫では国産30.8千トﾝ(前年比99.7%・前月差▲1.4千トﾝ)、輸入品139.3千トﾝ(同116.1%・同▲1.8千トﾝ)と合計で170.1千トﾝ(同112.8%・同▲3.2千トﾝ)となった。
相場	2. 見通し	(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、11月の出回りは国産145.7千トﾝ(前年比100.0%・前月差▲2.9千トﾝ)、輸入品53.8千トﾝ(同107.2%・同▲3.9千トﾝ)と合計で199.4千トﾝ(同101.8%・同▲7.0千トﾝ)となった。前月からは国産・輸入品が共に減少しているが、脚弱や大腸菌症発生などから生産が振るわなかったこともあり、不足感が強い1ヶ月だった。11月以降の国産品在庫については年末用の凍結在庫の消化が進み、一時的に減少していくと予想する。輸入品については1月の輸入量が昨年ブラジルで発生した高病原性鳥インフルエンザからの回復で急増したこともあり、相対的に前年から減少しているものの、日本国内の需要が堅調なことから輸入量は安定して推移すると予測する。在庫は増加傾向にあるものの、外食筋・加工筋の引き合いがあるため、急増することは考えにくい。
	1. 令和6年12月動向	(1) 令和6年12月の月平均相場は、モモ肉730円/kg(前月差+40円)・ムネ肉404円/kg(同+12円)正肉合計で1,134円/2kgと前月を52円上回り、前年同月を66円上回った。モモ肉相場は月初711円、月末は754円となり(昨年は月初680円、月末718円)、前年の相場を上回った。生産においては全国的に脚弱・大腸菌症の発生や昼夜の温度差による管理の難しさから成績が振るわなかったと考える。需要に対して供給量は少なかったこともあり、相場は伸長したと考える。販売についてはクリスマス商戦などのイベントの曜日周りが悪かったこともあり骨付きモモの動きが鈍かったとの話も聞かれるが、正肉の動きは良好だった。輸入鶏肉については外食向け需要が伸長していることから値崩れには繋がっていないようだ。
相場	2. 見通し	(1) 1月の生産量は生産・処理動向調査によると処理羽数・処理重量が前年を上回る見込みとなっているものの、全国的に高病原性鳥インフルエンザが多発していることに加え、全国的に脚弱・大腸菌症が目立つ。高病原性鳥インフルエンザの影響を抜きにしても出荷調整を行っている産地が散見されることから集荷が難しい場面が直近でも頻発している。鍋物に使用する野菜全般が高騰しているものの、鍋物関係の商材は動きが良かった。しかし、豚肉が安価な部位を中心に売れ行きが良い事を踏まえると、消費者の生活防衛意識の高まりから安価な商品へ需要が集中するだろう。輸入鶏肉については過去5ヶ月(7-11月)の出回りで対して国内の在庫量が2.6ヶ月分程度あるが、前年もほぼ同水準であることから極端に増加している訳ではない。国内の堅調な需要から輸入量・在庫量ともに増加していると考える。輸入鶏肉については1月の輸入量が落ち着く予測となっていることから投げ物が出る可能性は低いのではないだろうか。1月のモモ肉相場は上げの月平均740円、ムネ肉相場は月平均395円と予測する。 (2) 1月15日(水)現時点では養鶏場・家さん農場における高病原性鳥インフルエンザは28例発生している。肉用鶏(肉用あひる含む)は8例(50.9万羽)、採卵鶏は20例(396.4万羽)発生している。2023年シーズン1例目は11月25日(土)佐賀県鹿島市、2022年シーズン1例目は10月28日(金)岡山県倉敷市、2021年シーズン1例目は11月10日(水)秋田県横手市で発生しており、例年よりも早く発生している状況だ。今後の発生状況次第では国産鶏肉の需給および鶏肉相場へ影響が出ることは避けられないだろう。

実 績

生産状況											単位:千羽、千トン、%		
	R6年累計(推計)			R6年11月 推計実績		R6年12月計画		R7年1月計画		R7年2月計画			
	数量	前年比		数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比		
入雛羽数	791,291	101.1%		64,786	101.5%	68,982	98.6%	66,056	100.3%	57,826	96.4%		
処理羽数	749,071	100.7%		62,343	99.1%	65,917	96.7%	61,779	102.8%	57,065	98.2%		
処理重量	2,267.5	101.2%		189.8	99.1%	201.2	97.1%	184.2	101.1%	170.7	97.5%		
※参考資料: ㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」													
輸入動向											単位:千トン、%		
品名	鶏肉			調製品			合計			比率			
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品		
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8		
R5年累計	584.9	574.5	101.8	478.0	525.8	90.9	1,062.9	1,100.3	96.6	55.0	45.0		
R6年7月	51.8	46.7	110.9	47.5	39.5	120.2	99.2	86.2	115.2	52.2	47.8		
R6年8月	56.7	56.0	101.3	39.8	40.4	98.6	96.5	96.3	100.2	58.8	41.2		
R6年9月	49.1	48.4	101.6	39.9	40.8	97.7	89.0	89.2	99.8	55.2	44.8		
R6年10月	62.3	47.8	130.4	47.9	44.4	107.9	110.2	92.2	119.6	56.5	43.5		
R6年11月	52.0	39.2	132.6	46.2	46.6	99.1	98.2	85.8	114.4	52.9	47.1		
※参考資料: (独) 農畜産業振興機構「鶏肉需給表」													
鶏肉の消費動向							単位:グラム、円、%		相場(年別・暦年)		単位:円		
履歴	数量			金額			当年	前年	前年比	当年	前年	計	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比							
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7				H29年	626	315	941
R5年平均	1,495	1,510	99.0	1,547	1,448	106.8				H30年	595	282	877
R6年7月	1,385	1,361	101.8	1,411	1,422	99.2				R元年	585	243	828
R6年8月	1,399	1,363	102.6	1,427	1,411	101.1				R2年	614	269	883
R6年9月	1,526	1,424	107.2	1,467	1,487	98.7				R3年	641	313	954
R6年10月	1,584	1,502	105.5	1,595	1,587	100.5				R4年	662	348	1,010
R6年11月	1,586	1,508	105.2	1,629	1,569	103.8				R5年	730	395	1,125
※参考資料: 総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)										R6年	655	369	1,024
在庫状況(推定)							単位:千トン、%						
履歴	国産			輸入品			合計			当年	前年	前年比	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比				
R6年7月	35.5	30.6	115.9	133.6	129.6	103.1	169.1	160.2	105.5				
R6年8月	35.1	32.0	109.7	137.9	133.3	103.5	173.0	165.3	104.7				
R6年9月	33.2	30.0	110.3	136.5	132.5	103.0	169.7	162.5	104.4				
R6年10月	32.2	29.8	108.2	141.1	130.9	107.8	173.3	160.7	107.9				
R6年11月	30.8	30.9	99.7	139.3	120.0	116.1	170.1	150.8	112.8				
※参考資料: (独) 農畜産業振興機構「鶏肉需給表」													
出回り量(推定)							単位:千トン、%						
履歴	国産			輸入品			合計			当年	前年	前年比	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比				
R4年累計	1,683.1	1,685.4	99.9	563.3	604.1	93.3	2,246.5	2,289.5	98.1				
R5年累計	1,689.0	1,683.1	100.4	606.3	563.3	107.6	2,295.4	2,246.5	102.2				
R6年7月	141.0	131.7	107.1	51.3	50.7	101.1	192.2	182.3	105.4				
R6年8月	130.4	132.3	98.6	52.4	52.2	100.2	182.8	184.5	99.0				
R6年9月	137.9	137.7	100.1	50.5	49.2	102.7	188.4	187.0	100.8				
R6年10月	148.6	145.8	101.9	57.7	49.4	116.9	206.4	195.2	105.7				
R6年11月	145.7	145.7	100.0	53.8	50.1	107.2	199.4	195.8	101.8				
※参考資料: (独) 農畜産業振興機構「鶏肉需給表」													
相場(月別)							単位:円、%						
品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計			当年	前年	前年比	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比				
R5年度平均	700	702	99.7	384	371	103.5	1,084	1,073	101.0				
R5年平均	730	662	110.3	395	348	113.5	1,125	1,010	111.4				
R6年平均	655	730	89.7	369	395	93.4	1,024	1,125	91.0				
R6年9月	627	646	97.1	368	374	98.4	995	1,020	97.5				
R6年10月	652	649	100.5	379	369	102.7	1,031	1,018	101.3				
R6年11月	690	673	102.5	392	374	104.8	1,082	1,047	103.3				
R6年12月	730	691	105.6	404	377	107.2	1,134	1,068	106.2				
R7年1月	(740)	701	105.6	(395)	377	104.8	(1,135)	1,078	105.3				
R7年2月	(720)	682	105.6	(395)	369	107.0	(1,115)	1,051	106.1				
							※() は見通し						